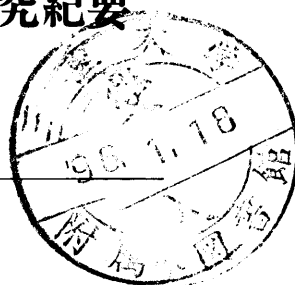


# 人文論叢

## 三重大学人文学部文化学科研究紀要

### 第 11 号



#### 目 次

##### 論説

社会学におけるモデル構築の課題

——抽象性(単純さ)と実在性(複雑さ)のアポリアを

如何にして解決するか—— 久慈 利武 (1～18)

近世小氷期の気候復元

——天明期から天保期まで—— 水越 允治 (19～27)

華文文学の方向性

——試論、求心力と独自性—— 荒井 茂夫 (29～44)

ヒマラヤ・チベット山塊東南部における埋没土壌の形成環境と

民族移動 岩田 修二 (45～62)

近代報刊小説と読者の閱讀方式 李 慶國 (63～70)

品詞分類とドイツ語の副詞 井口 靖 (71～87)

レッシングの寓話論(その二) 太田 伸広 (89～100)

日本におけるドイツ詩の翻訳と受容(独文) 宇京 早苗 (101～108)

ヴァイスマンの死の解釈をめぐる 小川真里子 (109～123)

マーティン・ルーサー・キング,Jr.の思想的深化と「第三世界」

——「勝利」後の闘いに焦点を当てつつ—— 川島 正樹 (125～141)

創作ソネットからの抜粋(英文) スコット・R・リッター (143～153)

兼好の言語規範意識の一側面

——『徒然草』第百六十段(門に額かくるを)を手懸りとして——

山本 真吾 (一〇～一五)

徐陵の駢文について 道坂 昭廣 (二〇～二五)

魂についての序章 松井 良和 (二六～三〇)

「燕子樓詩」をめぐる

——妓女詩人關盼盼に関する『唐詩紀事』の虚構性を問う—— 西村富美子 (一～五)

##### 研究ノート

移行期の近隣社会

——カナダ・トロント市中心部におけるコミュニティーの変化——(英文)

廣松 悟 (155～171)

三重大学人文学部

1994